

平成24年度秋田県男女の意識と生活実態調査結果（概要）

1 調査の目的

本県の男女共同参画社会に関する県民の意識と生活実態を把握し、今後の男女共同参画行政の施策立案等の基礎資料とする。

2 調査の概要

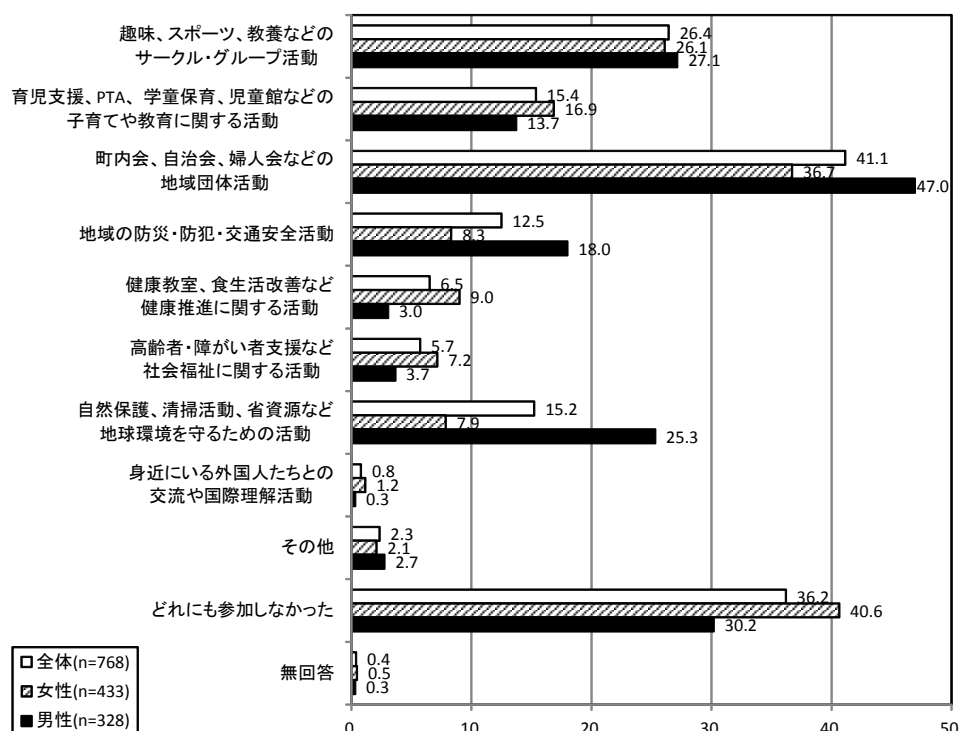
- (1) 調査対象 無作為抽出した県内在住の満20歳以上の男女2,200人
- (2) 有効回収数 768人（女性433人、男性328人、不明7人）、回収率34.9%
- (3) 調査方法 調査票往復郵送によるアンケート方式
- (4) 調査内容 地域活動、家庭生活、男女共同参画に関する意識、男性の家事・育児等の参加、男女共同参画の推進に関する施策、しつけと教育、職業、ドメスティックバイオレンス（DV）など
- (5) 調査期間 平成24年9月～10月

3 主な調査結果

(1) ここ1年ほどの間で参加した地域活動について

最も参加の多い活動は、約4割の人が参加している「町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動」。

女性の約4割、男性の約3割の人が、20歳代では過半数が「どれにも参加しなかった」と回答している。



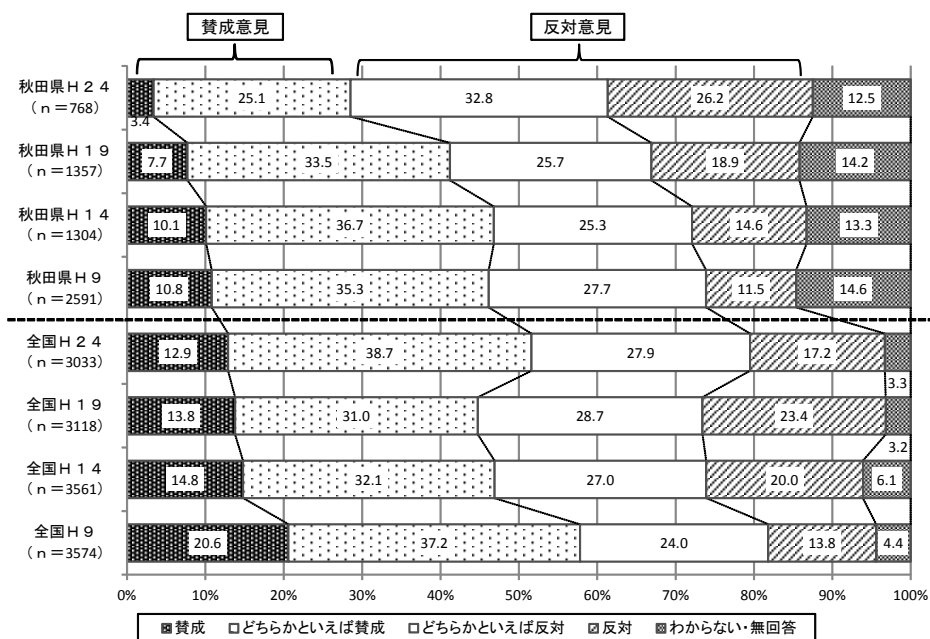
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

調査開始以来初めて、反対意見（「反対」、「どちらかといえば反対」）が59.0%と、賛成意見（「賛成」、「どちらかといえば賛成」）の割合28.5%を大きく上回り、過半数となった。

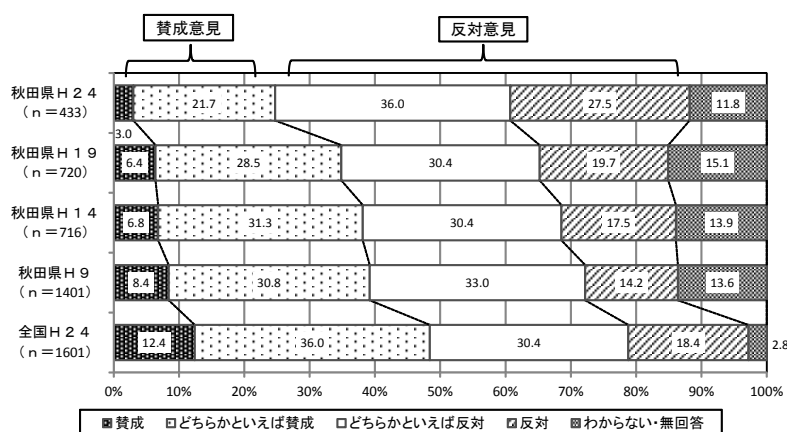
性別にみると、女性は前回調査より反対意見と賛成意見の差が拡大し、男性は今回の調査で初めて反対意見が賛成意見を上回った。

全国調査の結果では賛成意見が反対意見を上回っており、秋田県では全国の結果とは異なる結果となった。

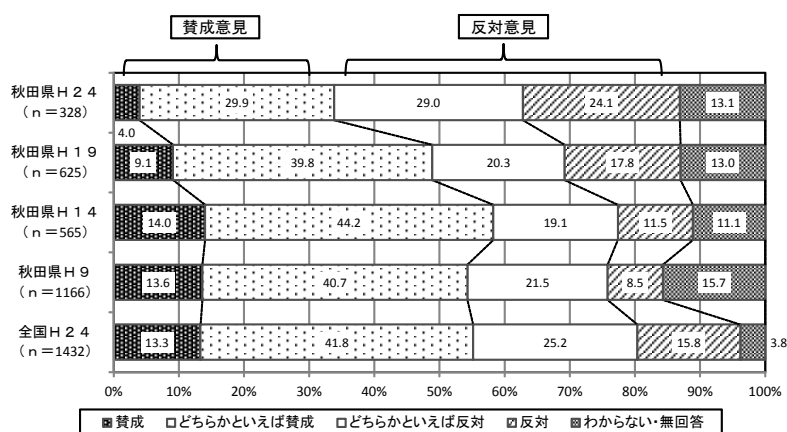
(全体)



(女性)



(男性)

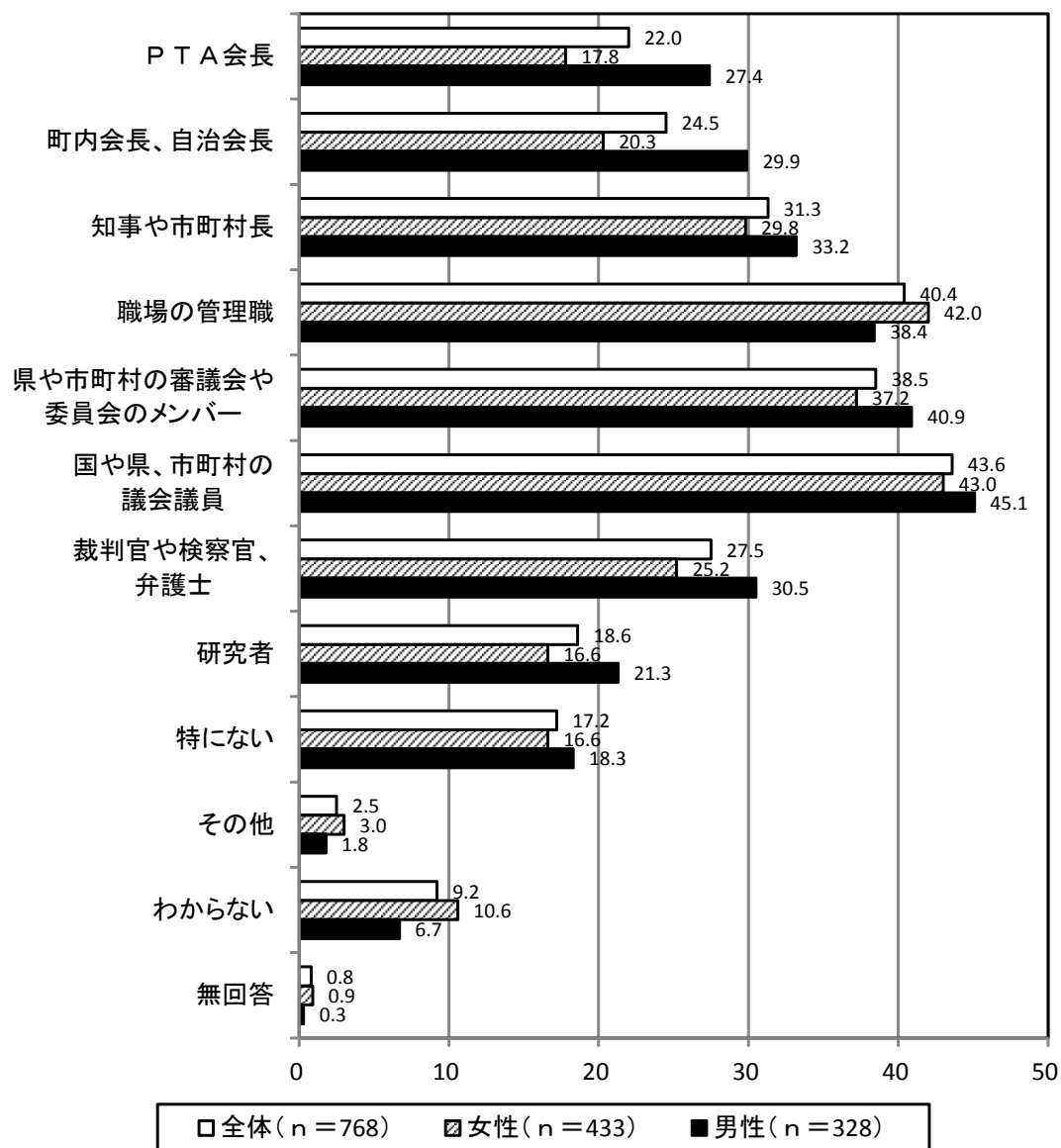


(3) 女性が「もっと就いたほうがよい」と思う職業について

全体で、「国や県、市町村の議会議員」が最も多く、次いで「職場の管理職」、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」となっている。

男女を比較すると、「職場の管理職」を除き、女性の方が「もっと就いたほうがよい」と思っている人の割合が少ない。

(%)

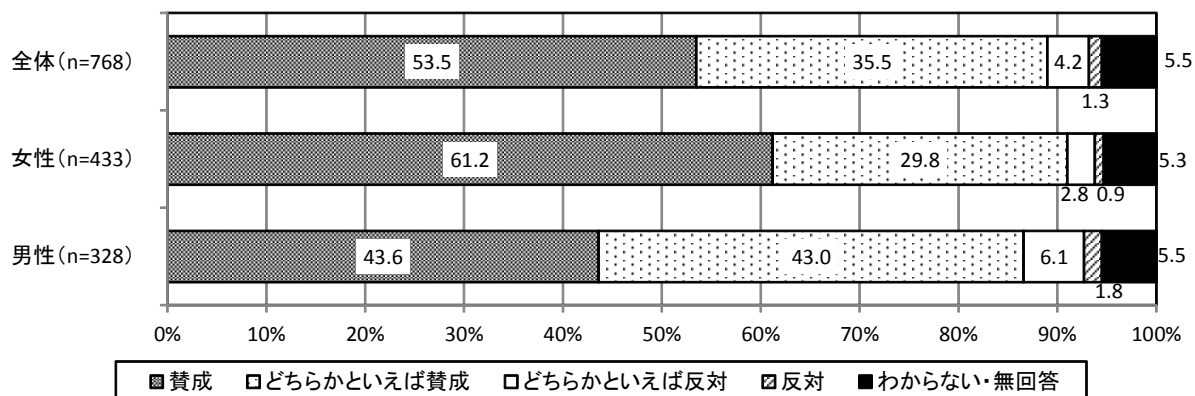


(4) 男性の家事・育児等の参加について

全体で約9割の人が「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答している。

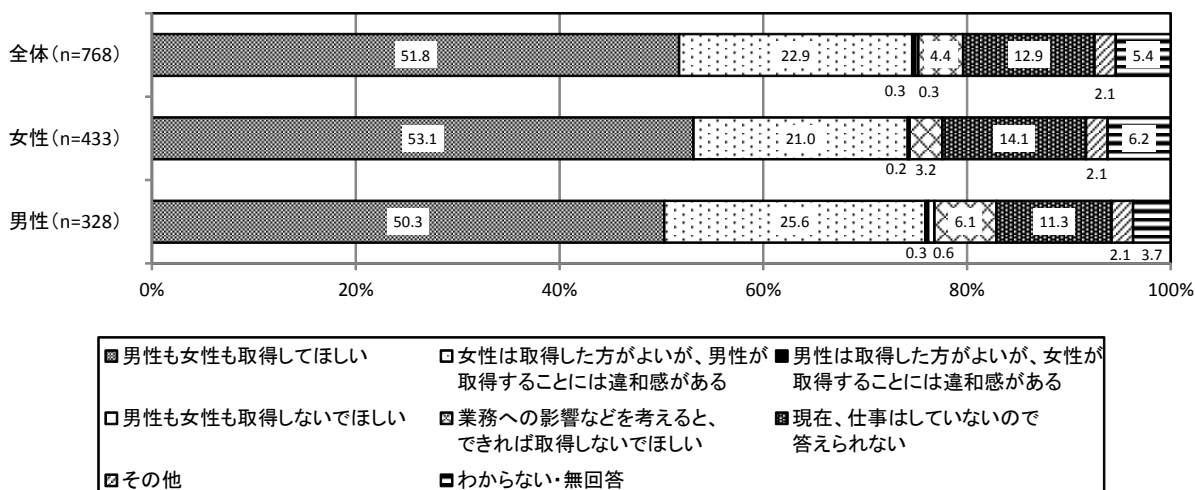
男女別にみると、女性は「賛成」が「どちらかといえば賛成」を大きく上回っているが、男性では「賛成」と「どちらかといえば賛成」が拮抗している。

「賛成」と回答した割合をみると、女性が男性を17.6ポイント上回っており、男性の参加を強く望んでいることがうかがえる。



(5) 育児休業の取得について

男女ともに過半数の人が「男性も女性も取得してほしい」と考えているが、「女性は取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」と感じる人も多く、2割程度を占めている。

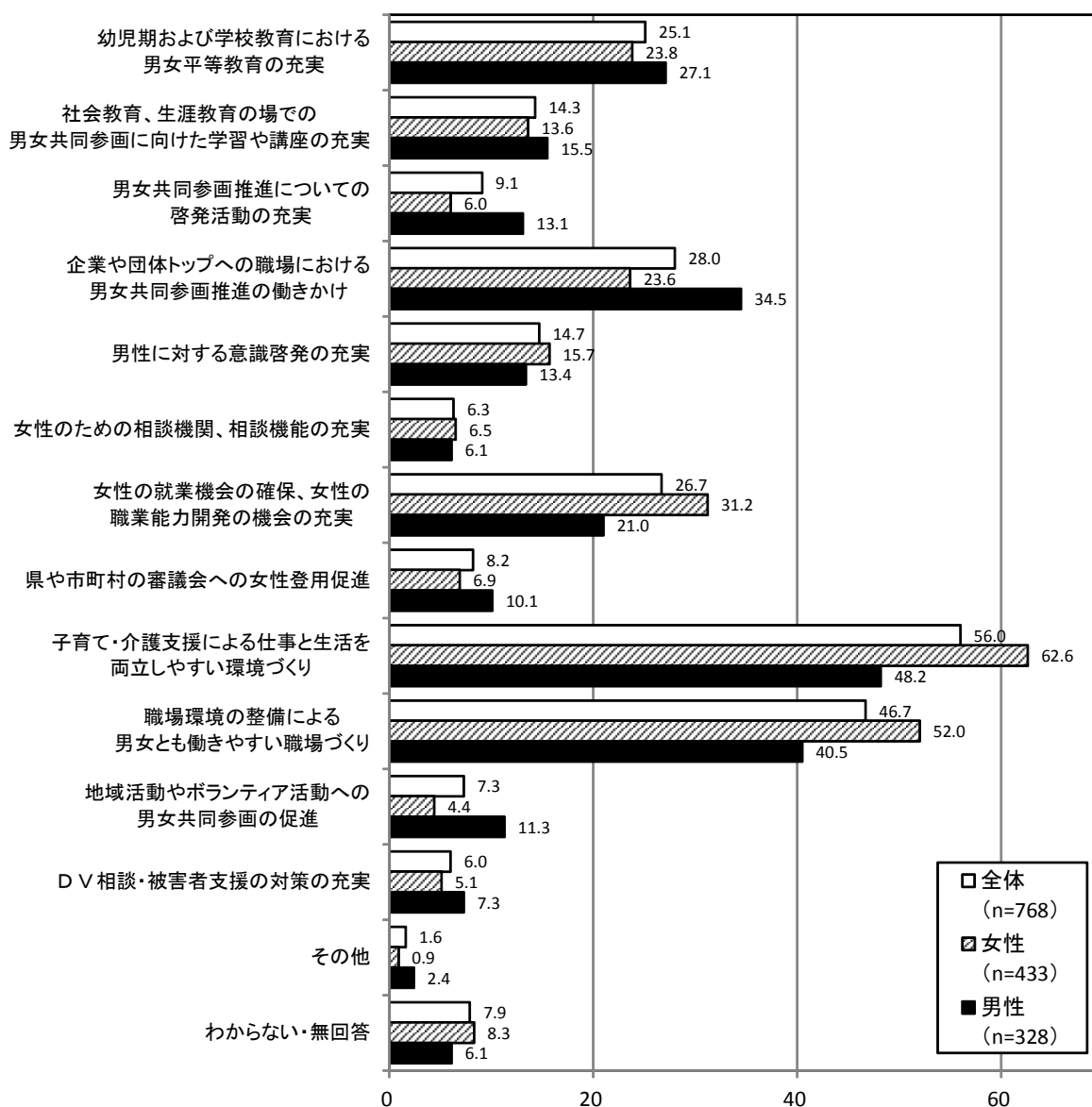


(6) 男女共同参画社会の推進に関する施策について

全体では、「子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり」を望む人が最も多い。

男女とも2番目に多かったのは「職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり」であったが、3番目は男性が「企業や団体トップへの職場における男女共同参画推進の働きかけ」、女性が「女性の就業機会の確保、女性の職業能力開発の機会の充実」となっており、男女の意識に差がみられる。

(%)

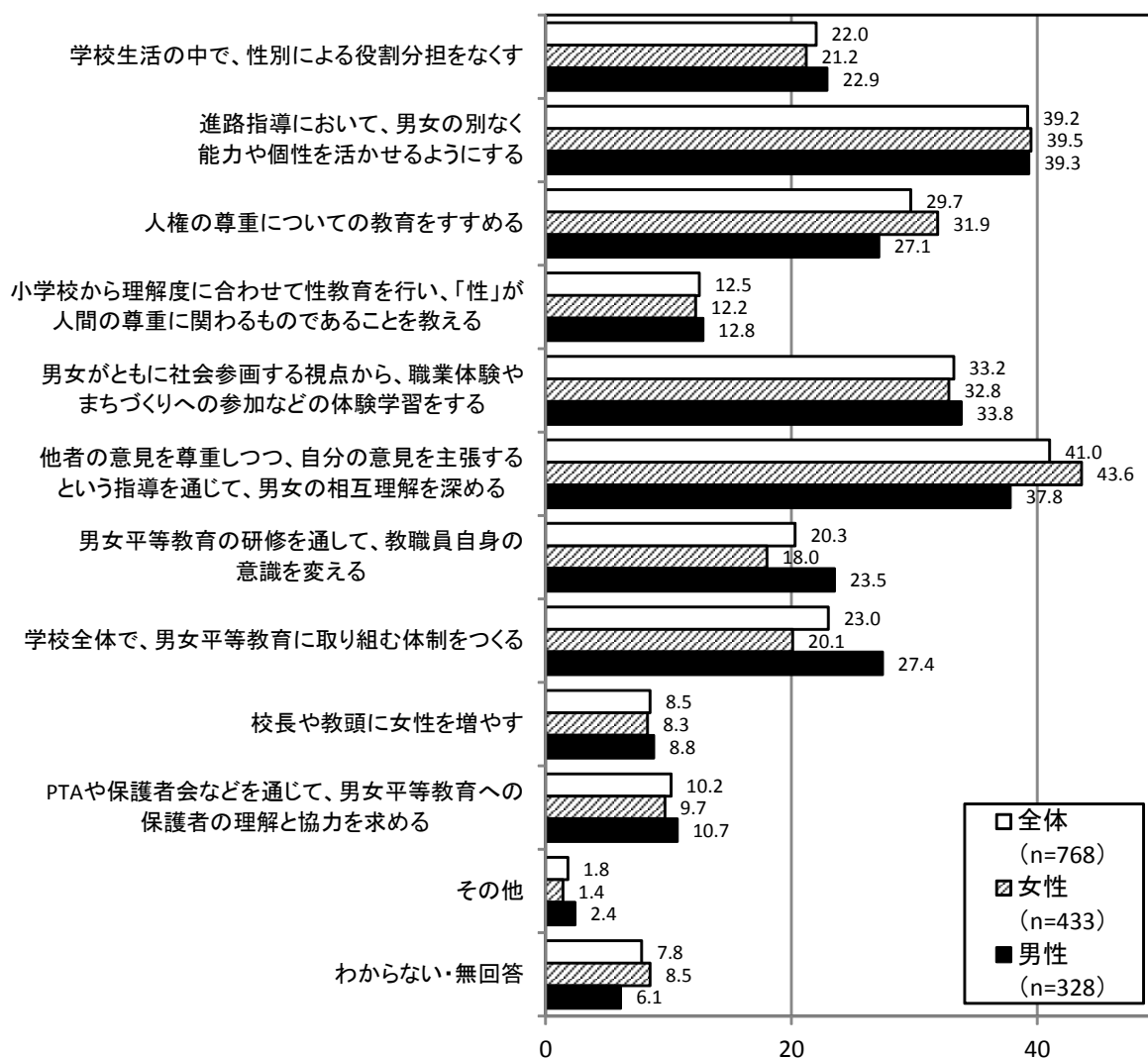


(7) しつけと教育について

全体で、約4割の人が「他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める」こと及び「進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする」ことを期待している。男性では「進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする」が最も多く、女性では「他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める」が最多となった。

男女で最も差がみられたのは「学校全体で、男女平等教育に取り組む体制をつくる」であり、その差は7.3ポイントとなっている。

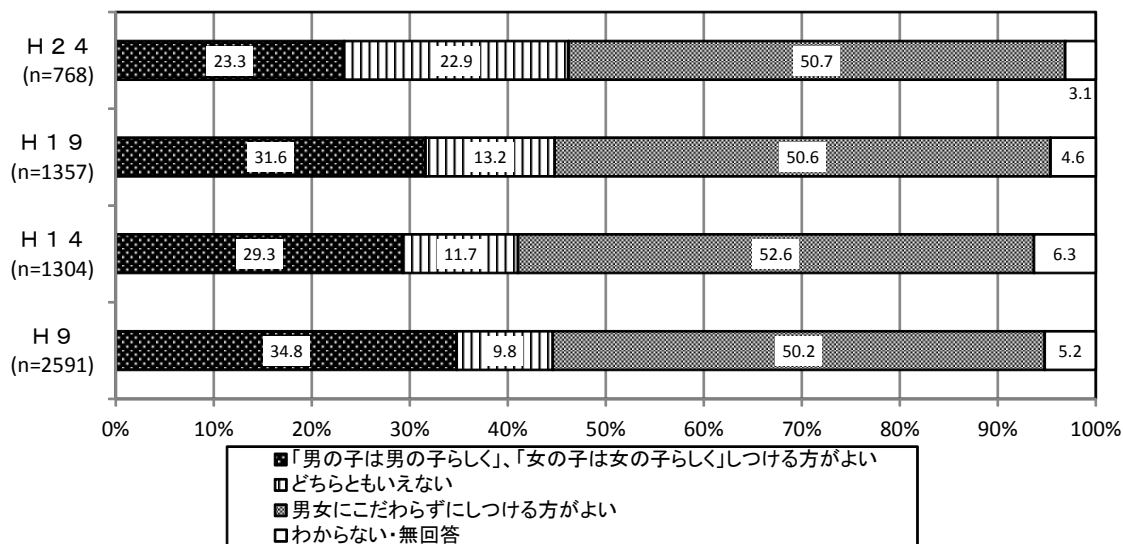
(%)



(8) 性別によるしつけ方について

過半数の人が「男女にこだわらずにしつける方がよい」と考えている。

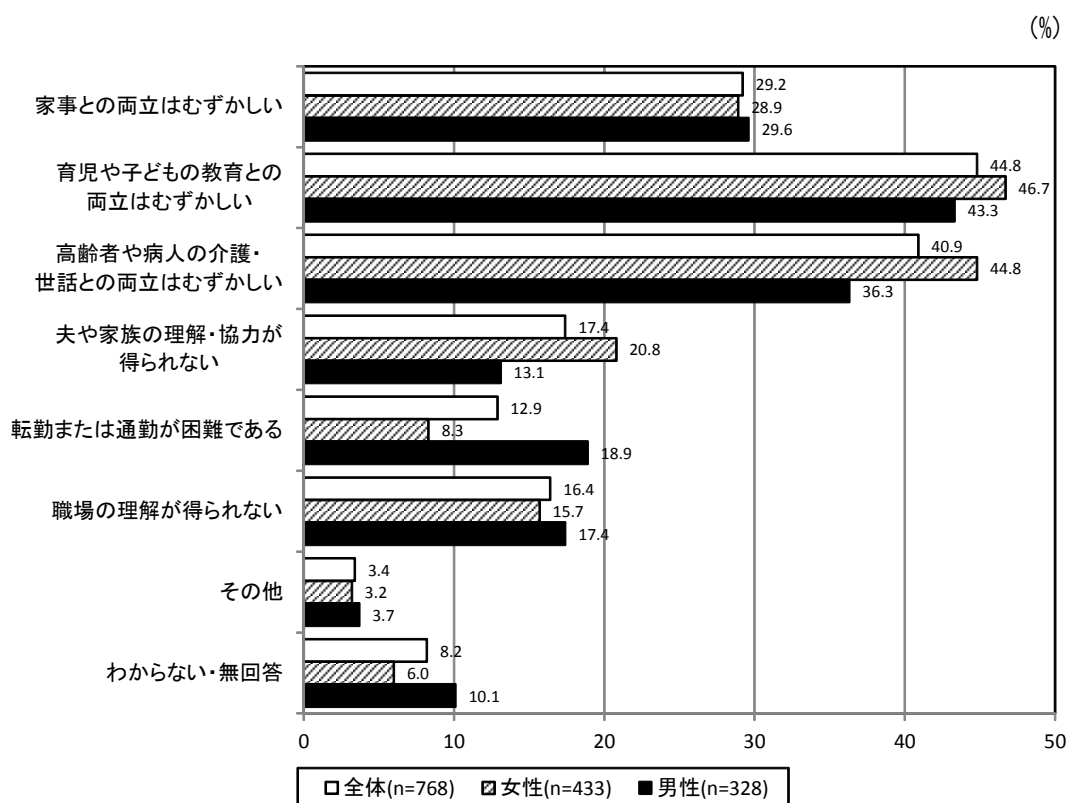
前回調査と比較すると、「男の子は男の子らしく」、「女の子は女の子らしく」しつける方がよい」と考える人の割合が大きく減少している。また今回の調査では「どちらともいえない」と回答する人の割合が大幅に増加している。



(9) 女性が働き続けることを妨げている問題点について

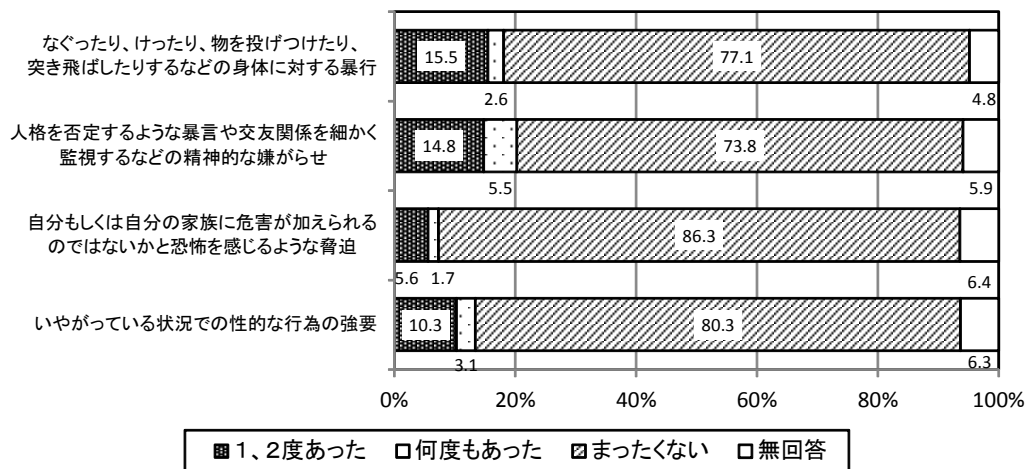
「育児や子どもの教育との両立はむずかしい」が最も多い。

「高齢者や病人の介護・世話との両立はむずかしい」、「夫や家族の理解・協力が得られない」、「転勤または通勤が困難である」では男女間で意識の差が大きい。



(10) DVの被害経験について

最も被害経験のある人の割合が高かったのは精神的な嫌がらせであり、2割程度の人が精神的な嫌がらせを受けた経験をもつ。



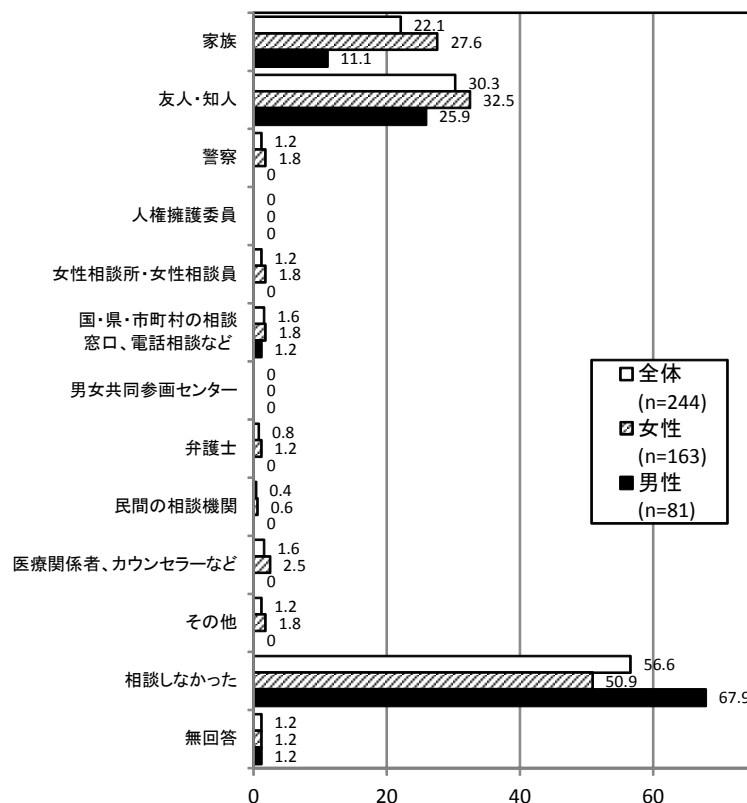
(11) 被害の相談の有無について

「相談しなかった」と回答する人が過半数を占めている。

相談した人の中では、相談先として「友人・知人」、「家族」と答える人が多く、その他はごく少数であった。

女性より男性の方が「相談しなかった」と答える人の割合が高い。

(%)



秋田県男女の意識と生活実態調査（平成25年3月）

秋田県生活環境部男女共同参画課 TEL：018-860-1555 FAX：018-860-3895